东京都内小学生の約 80%、中学生の約 95%が近視

慶應義塾大学医学部眼科学教室の坪田一男教授、栗原俊英特任准教授らは、東京都内の小中学生約 1,400 人を対象とした近視疫学研究を行い、日本における近視有病率を約 20 年ぶりに報告し、近視とドライアイに関連がある可能性も見出しました。

小児では成長に伴い眼軸長の伸長がみられますが、近視眼では特に長くなることが知られており、眼軸長検査は近視の評価において重要性を増してきています。また強度近視では、眼軸長が長くなることで黄斑変性や視神経障害などの合併症の危険性が上がることも知られています。

今回、本研究グループは、近視の評価として、屈折値と眼軸長の両方を測定し、調査票を用いて近視とライフスタイルの関連性も調査しました。その結果、小学生 689 人における近視有病率は 76.5%、強度近視有病率は 4.0%、平均眼軸長は成人とほぼ同等の 23.41 mm でした。中学生 727 人における近視有病率は他国の既報よりも高い 94.9%で、強度近視有病率は 11.3%、平均眼軸長は 24.73 mm でした。

全校生徒 1,478 名（小学生/中学生：726/752 名）のうち、保護者から同意が得られ、かつ検査当日出席した 1,429 名に対し、非調節麻痺下他覚屈折値と眼軸長を測定しました。そのうち、近視進行予防の治療を行っている生徒や、視機能に影響を及ぼす眼疾患の既往のある生徒を除いた 1,416 名のデータを解析しました。

その結果、小学生 689 人における近視有病率は 76.5%であり、強度近視有病率は 4.0%でした。特に小学 1 年生時点での近視有病率は、既に 60%を超えていることが明らかになりました（図 1）。また平均屈折値は-1.73 ± 1.98 D、平均眼軸長は 23.41±1.03 mm でした（図 2）。

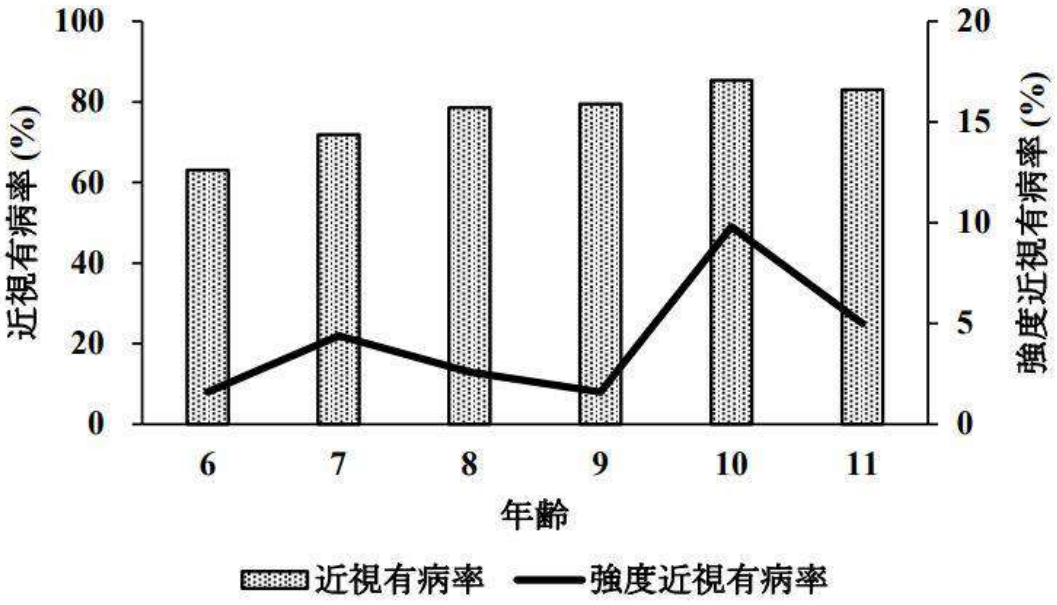

図 1 東京都内公立小学校における近視・強度近視有病率
小学生の近視有病率は 76.5%であり、強度近視有病率は 4.0%であった。

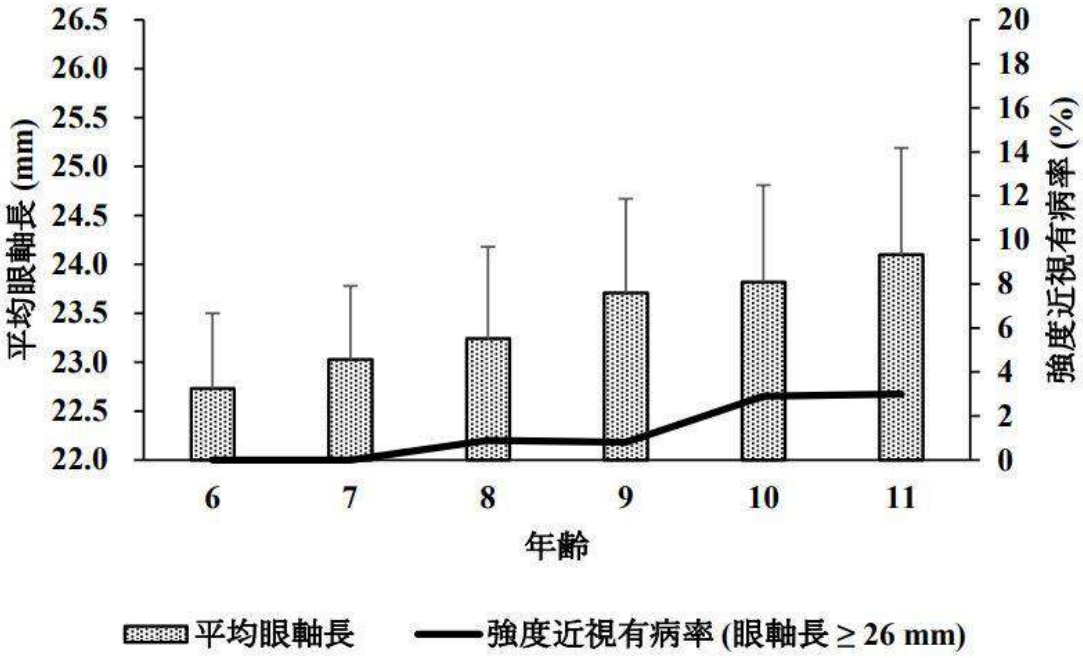

図 2 東京都内公立小学校における平均眼軸長と、眼軸長からみた強度近視有病率
小学生の平均眼軸長は 23.41 ± 1.03 mm で、強度近視（眼軸長 26.0 mm 以上）は、1.2%であった。

中学生 727 人における近視有病率は 94.9%、強度近視有病率は 11.3%で、中学生の 3 学年 全てにおいて、近視有病率は 90%を超えたという結果でした（図 3)。これは、東アジアの他 国の既報よりも高い有病率であり、中学生期における近視が深刻なものであることが示され ました。平均屈折値は-3.09 ± 2.26 D、平均眼軸長は 24.73 ± 1.19 mm であり、強度近視（眼 軸長 26.0 mm 以上）有病率は 15.2%でした（図 4)。

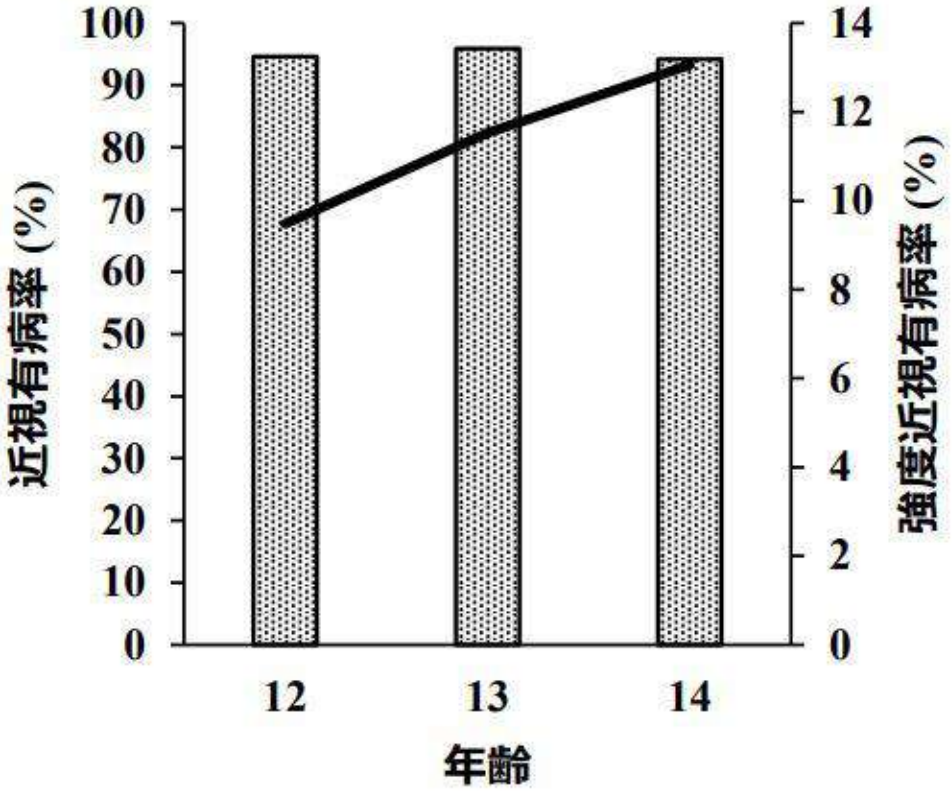

図 3 東京都内私立中学校における近視・強度近視有病率
中学生の近視有病率は 94.9%であり、強度近視有病率は 11.3%*であった

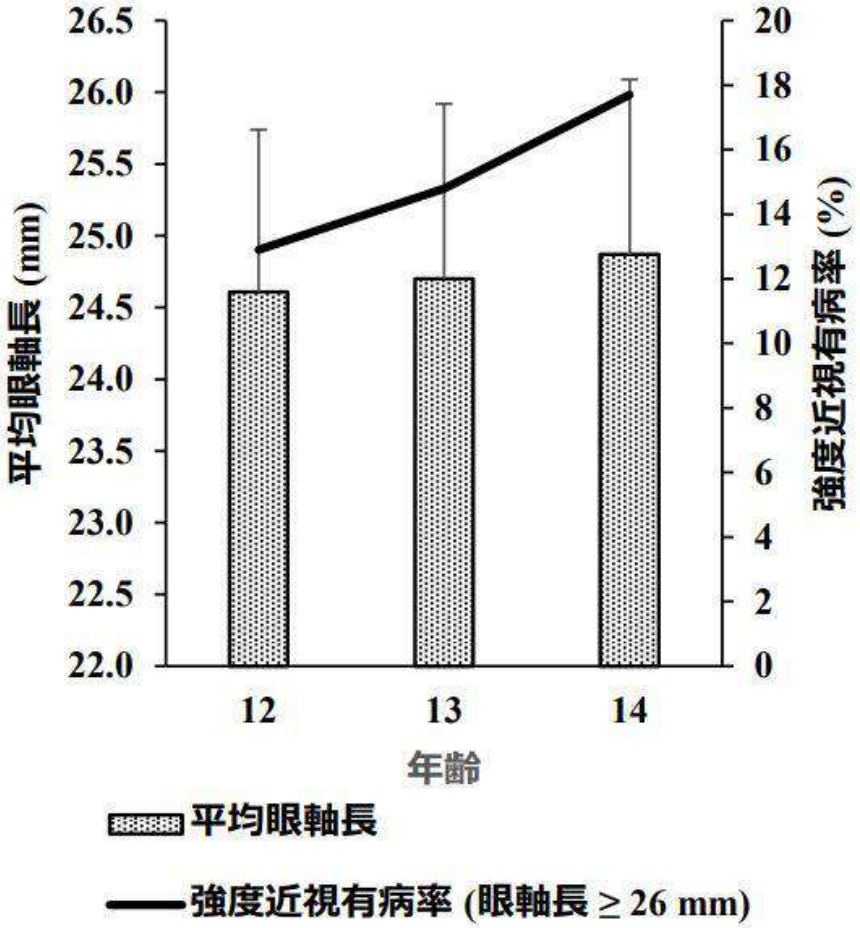

図 4 東京都内私立中学校における平均眼軸長と、眼軸長からみた強度近視有病率
中学生の平均眼軸長は 24.73 ± 1.19 mm で、強度近視（眼軸長 26.0 mm 以上）は、15.2%であった。

本調査結果が近視の増加に対し警鐘を鳴らし、今後の近視人口・強度近視人口の増加に歯止めをかける一助になると期待されます。研究成果は 2019 年 8 月 15 日（米国東部時間）『JAMA Ophthalmology』のオンライン版に掲載されました。

日文新聞发布全文　https://www.keio.ac.jp/ja/press-releases/files/2019/8/19/190819-1.pdf

文：JST 客观日本编辑部翻译整理